

## 第1号 種子予措編

庄内総合支庁 農業技術普及課  
Tel. 0235-64-2103

**健苗育成は高品質・良食味・安定生産の第一歩！**

○健苗育成のポイントは適正な育苗期間

○発芽良好&病害回避のために、浸種時は適切な水温管理を徹底

### ☑移植日から逆算して作業計画を立てましょう

高品質・良食味生産のための移植適期は 5月10日頃です。移植が遅くなると初期生育の確保が難しくなり、収量が低下する場合があります。移植日から逆算して育苗の計画を立てましょう。

※移植日から逆算した育苗計画の一例

種子消毒	浸種	浸種期間	播種	育苗期間	移植
4月6日前後	4月7日前後	8~12日間	4月15日~20日	20~25日間	5月10日頃

2.5葉苗の場合

### ☑薬剤消毒時は使用方法を確認

- 1 薬剤の種類で対象病害虫や処理方法が異なります。希釈倍率や処理時間等を必ず確認しましょう。
- 2 薬液の温度が低すぎると効果が低下するので、処理時の水温は10℃以上を確保しましょう。
- 3 薬液に浸漬したら必ず籾袋をゆすり、薬液を籾袋の内部まで十分浸透させましょう。

※ 薬剤消毒の一例

使用薬剤	テクリードCフロアブル
処理時間	24時間
希釈倍率	200倍
種子の量	乾籾10kg
水量・薬剂量	薬剤100ml+水20ℓ

プロクロラズ剤(スポルタック剤)の「ばか苗病」耐性菌が確認されているので、注意しましょう。

### ☑温湯消毒時の留意点

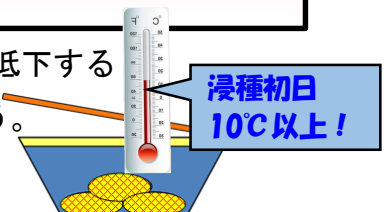
- 1 温湯消毒は、「58℃ 20分」または「60℃ 15分」です。(ただし、使用する温湯消毒機の説明書に記載ある温度・時間に従ってください。)
- 2 浸種直後、水面上に種子袋を5回ほど上げ下げし、種子袋の中心部まで温湯を浸透させましょう。また、温湯消毒後はただちに冷却し、そのまま浸種します。

### ☑浸種のポイントは適正水温の確保

#### 重要

令和5年は高温登熟であったため、例年より種子の休眠が深い可能性があります。浸種は、種子に水分と酸素を十分に供給することで種子の休眠を覚ます重要な管理です。催芽ムラ・出芽ムラを回避するために、浸種時の適切な水温管理や水交換を徹底しましょう。

- 1 浸種中の適正水温は10~15℃です。浸種初日の水温が低いと発芽率が低下するおそれがあるので、浸種初日は必ず水温10℃以上を必ず確保しましょう。



2 水温 15℃を超えるとばか苗病が発生しやすくなります。浸種桶に直射日光が当たらないようにするなど、置き場所・置き方には十分注意しましょう。

品種	積算気温	浸漬日数	
		水温10℃	水温12℃
はえぬき、つや姫、雪若丸 ひとめぼれ、コシヒカリ	120℃	12日間	10日間

**気温が急上昇する日があります。そのような時は水温管理に特に注意しましょう。**

3 新鮮な酸素を供給するために必ず水交換を行いましょう。また水交換の際は吸水ムラを防ぐため種子袋の配置を替えましょう。

- ・水温確認のために温度計
- ・浸種初日は 10℃以上
- ・浸種中は 10℃～15℃
- ・長期間の浸種は、ばか苗病発生リスク高めるので避ける

- ・桶は日陰や屋内に置く
- ・菌の飛び込みを防ぐため浸種桶にはフタをする

薬剤消毒した場合は防除効果を安定させるため、浸種開始3日間は水交換をしない

- ・水量は乾籾 10kg に 30ℓ以上
- ・水交換 2～3 日に 1 回

### ☑ 催芽はハト胸状態を確認

催芽時間は、うるち品種では通常20時間程度です。30～32℃のたっぷりの温湯に袋全体を浸します。ハト胸状態をよく確認してから引き上げましょう。

### ☑ 播種日・播種量を確認

播種日は、移植日から逆算して設定します。播種が早すぎると、移植するまでに苗の老化が進み、活着が劣ることになるので、注意しましょう。播種量は、稚苗では乾籾で箱当たり150～180gを目安に播種しましょう(右表参照)。

	移植時の葉齢	育苗日数	乾籾重(g)	催芽籾重(g)
稚苗	2.2～2.5	20～25	150～180	190～230
中苗	3.2～3.5	30～35	80～120	100～150

※ 雪若丸は粒が大きいので、適切な播種粒数とするために、播種量を1割程度増やしましょう。

## 重要

### 高密度播種の注意点

高密度播種(乾籾250～300g程度/箱)を行う方が増えていますが、健苗に育てるために、次の点に十分注意しましょう。

- ①葉数 2.2 枚程度(育苗期間 20 日程度)で移植できるように、計画的に播種しましょう。
- ②厚播きなので苗は生育停滞または徒長・老化しやすくなります。ハウス内・トンネル内の高温は徒長・老化を早めるので、温度管理には十分注意。
- ③吸水量・蒸散量が多くなります。灌水は箱の底まで浸みるようにタツプリ(朝1回)。
- ④育苗日数が長引く場合は、苗の老化や移植後の生育停滞を防ぐために、移植5～3日前に箱当たり窒素成分1g程度追肥しましょう。



**まもなく春作業開始。農業機械事故を防ぎましょう!**

**(農作業安全確認運動 実施中 3/1～5/31)**